

伊賀市 第5回 読書感想文コンクール

第5回読書感想文コンクールに市内の小・中学校・高校および一般の皆さんから245点の応募がありました。その審査結果と特選作品をご紹介します。

■問い合わせ 上野図書館

☎21・6868
FAX 21・8999

審査結果（敬称略）

《特選》	
第1部（高校生・大学生・一般）	中野桃果（青山小1年） 池田彩花（青山小1年）
第2部（中学生）	安永千紘（上野東小2年） 垣内あおり（府中小2年）
第3部（小学生）	藤山裕大（依那古小3年） 中野朝馨（府中小3年） 松本奈緒（河合小3年） 西田陽南（河合小3年） 神谷 茜（猪田小4年） 松嶋琴末（猪田小4年） 増田歩華（猪田小4年） 一路陽菜（中瀬小4年） 安田祐士（上野東小5年） 石山烈太（上野東小5年） 廣岡拓実（神戸小5年） 西田美加（中瀬小6年） 前川拓也（府中小6年） 蜂須賀紀行（玉滝小6年） 森川澄麗（青山小6年） 長谷健太郎（青山小6年）
《入選》	
第1部	内田郁子（上野高校1年） 神崎由起子（日生学園第一高校2年）
第2部	西岡茉莉（崇広中1年） 佃 駿介（島ヶ原中2年） 峰 ちさと（島ヶ原中2年） 川崎 亮（丸山中2年）
第3部	松村朱莉（壬生野小1年）

特選作品

〔第1部〕

『蘭』を読んで

一般

石橋 容子さん

暑い。西日の射し込む列車で

二人掛けの座席は至る所で三人掛けになり、窮屈そうに身を寄せあつた乗客が、晴れない顔つきで扇子や団扇を使っている。光景からこの物語は始まる。暑い空気を払ったところで虚しい。

なんだか息苦しい。この列車

の雰囲気は、現代を生きる私の気持ちと重なり合う。息をするのも身動きするのも自由でないこの感じである。努力はしている。一生懸命働いている。なのに暮しは楽にならない。給与は下がった。年金はあるのだろうか。さぼっている訳ではないのに、毎日、仕事と育児に髪を振り乱してもがいている。漠然とした不安をどこにおつけていいのかわから、思いつかない。閉塞感の中、生き辛さを感じる。ことがある。

『蘭』の車内の暑苦しさは何によつてもたらされるのだろうか。父親は、「平素着なれない国民服」というものを着用し、「軍需工場に暑くても当局の命令どおり窓に錠戸を下ろさなければならな

かった」とある。答えは、戦争だ。

列車は買出しの国民服やモンペ姿の人たち、荷物で一杯だ。この車中で「襟元を詰め」たカーキ服を着た父と向かい合っているのが、ひさし少年である。父と葬儀に行った帰りの彼はおまけに歯痛まで覚え始める。

彼はどうするのか。私は見守る。なにしろこの本の人々は、いじらしいまでに奥ゆかしい。私は、自身の時間に追いたたれる生活に「忙しい」だの「責任の所在はここにあるのではないのか」だの「許せない」だのかまびすしく不平を鳴らしている。言つたあと決して心の平安を得る訳ではないが、雑音を発してとりあえずしのいでいる。

逆に言つて心がささくれだつてくることも少なくない。ひさしは、なんとか我慢しようとするのだ。ひさしの周囲で不機嫌そうな顔をしていた大人たちも、そのうち、「振動にまかせて一様に首をかしげ、一樣に目を閉じていく。」

こうなつたら、歯痛も一層になるのではないか。人間の心理として、自分の痛みを知り、汲み取ってもらえば救われるだろうが、目覚めているのが一人になつたとき、その時はすべての痛みを孤独のうちに一身に受けねばならない。父親が困ると思

い訴えなかつたひさしも、眠っている人々に気遣つて、指で父のひざをつついた。景色で気を紛らすことも手洗いに立つこともできぬ環境での最善である。

父は父で、寡黙な人物だ。今回ひさしを葬儀に同席させた本心を家族には言わない。戦争前の生活に戻れるあてはなく、所有していると思われる工場の働き手は兵役に取られていく。社会と直接つながる経営者として戦争がいかに理不尽に市民の生活を奪っていくのを感じ取つていた。息子を連れて遠出する機会もこれからなくなると考えたのに違いない。しかし、それを伝えれば、家族の不安は増幅する。優しい心遣いを語つて相手に知らせるのでなく、語らないことが優しさになる。父の気遣いをひさしや母が知るののもつと後になつてからであらう。

ひさしは、周囲を思いやつて音を立てない。父は、知らせないことで戦争の恐怖から家族を守る。言葉にしない優しさも雄弁だ。父は葬儀の後、ひさしに故人と親しかった女将のいる店で水炊きを食べさせる。板前も材料も質素倭約の統制でままならぬのに女将は無理をして調える。ひさしは、初めて会つた女将の物言いやしぐさを見て、「きつと優しい人にちがいない」と思う。更に、「今

か

か

か

日という日に、大事な人のお葬式にも出られて同じ土地にひっそり働いている女の人を知って漠然とながら人生の奥行きのようなもの」を感じている。

女将もまた言葉には出さない。が、物言いやしぐさで表される悲しさがある。大っぴらに世間に出せぬ人間関係にも温かい情はある。相手を思う気持ちは対等だ。子も父も恋人もお互いを大切に感じる心の豊かなこと、細やかなことに魅せられる。私と現代の世の中は言葉や情報にあふれている。その下にしっかりとった思いはあるだろうか。温かい気持ちはあるだろうか。自分の発する言葉が軽薄なように自戒した。

そんな繊細な人々の思いも、関係もずたずたにするものがある。戦争である。戦争は武器を持つ戦闘だけではない。父の工場も人々の生活も正当な理由なくしてすべて奪っていく。人々はその中で無力化していくのではないか。車内で目を閉じていく人々のように。

唯一父が見せた抵抗がある。蘭が描かれた祖父譲りの扇子を縦に引き裂くのである。骨を細く裂き、歯痛のひさしに差し出す。

父に大切なものを裂かせたのは、愛する者を守れない焦り、戦争への憤りであろう。扇子を

破いたところで何になろう、と私は言う気にならない。一市民が閉塞した状況の中で取った行動に私は健気さすら感じる。私は子どもに何を伝えられるか。解決につながらなくても、私は私の蘭を探し、見せてやりたい。

【第2部】

「100歳になった介助犬」 を読んで

成和中学校3年

田中 愛郁さん

この本は、グレーデルという日本で最初に育成された国産第一号の介助犬と、そのグレーデルのユーザーである野口利男さんの十数年におよぶ物語である。

この作品を読む前に、テレビでグレーデルと野口さんの特集を見た。私は、将来、犬の訓練士になりたいということもあって、その特集にはとても興味があった。そんな時、書店でこの本と出会ったのだ。

とにかく野口さんとグレーデルの出会いの場面がすごく印象的で感動した。野口さんは、筋ジストロフィーという身体に不自由を与える病気を抱えていた。生きる希望も失い、いつ死が訪れる分らない恐怖の中で生きていた。そんな時、新聞記事で介助犬のことを知ったの

だ。野口さんの目に輝きが戻った。本の中に、「死ぬことより怖いものはないですよ。」という、野口さんの言葉が載せられている。私はこの言葉を読んだ時、グレーデルの新聞記事を見つけた前の野口さんがどれだけ絶望していたかが伝わってきたし、自分が何気なく使ってしまった「死」という言葉の、本当の意味を知ったような気がした。

以前、「死ぬ」という言葉について皆で話し合ったことがある。テレビなどでも簡単に使われているこの言葉の意味を、私はちゃんと理解していなかったのかも知れない。野口さんの一言に気づかされたことは、私にとってはとても大きな意味があった。

野口さんは、グレーデルを引き取りたいと志願した四人の中から選ばれた。野口さんは、グレーデルと生活していく上で必要な相性を調べるテストの日、初めてグレーデルを見たときから「あ、この子は僕のところへ来る。」と感じたそうだ。それが実現して、グレーデルは野口さんのパートナーとなったのだ。私は、凄いなと思った。野口さんの生涯のパートナーとなる、グレーデルとの出会い。やはり運命というものがあるのだろうか。二人は引きつけられるように出会ったことで野口さんに生きる

希望が戻ってきたのだ。

野口さんとグレーデルの生活が始まったが、最初は全然心が通じなかった。野口さんは自分の指示を聞いてくれないので、悩んでいた時期もあった。しかし、野口さんはグレーデルを信じ、生活を共に過ごした。そして、しだいに野口さんとグレーデルの間には強い絆が生まれできたのだ。日にちを重ねるごとに、二人の絆は強く結ばれていった。人と犬。言葉を交わすことも出来ないし、人間同士のコミュニケーションよりさらに難しいことなのに、野口さんとグレーデルはお互いの中で信頼関係を築き上げていった。これはすごいことだと思う。

私は、学校で友達とぶつかり合ってしまうことが、よくある。しかし、言葉を交わすことで仲なおりましたり、理解し合ってきた。でも、野口さんとグレーデルは言葉を交わさなくても、心を通じ合わせる事が出来る。人間同士ならもっと心を通わせることが出来るのではないだろうか。コミュニケーションの大切さを改めて考えることが出来た。

もう一つ、この場面で思うことがあった。私は将来、犬の訓練士になりたいと思っている。私も、この野口さんとグレーデルのように、パートナーと心を

通わせることの出来る訓練士になりたいと強く思った。訓練士になれば、調教する犬は仕事でのパートナーだ。だから、この本を読んで、犬との信頼関係を築けるようになりたいと、自分の将来の夢について具体的に考えることができた。また、犬とだけではなく、たくさんの人と関わる訓練士の仕事なので、人とのコミュニケーション能力もとても大切だと感じた。今は、周りの人とのコミュニケーションを大事にしていこうと思う。

この本を読んで野口さんとグレーデルの姿から、たくさんのごことを学んだ。介助犬を必要としている人たちの数に比べて、介助犬の数はとても少ない。グレーデルのように生きる希望を失いかけた野口さんにもう一度、目の輝きを取り戻させることができる介助犬を、待ちのぞんでいる人たちが、今の社会にはたくさんいるのだ。そのために、もっと介助犬をたくさん世に出していかなければならない。

私は、これから、介助犬を必要としている人たちのためにたくさん犬を調教する訓練士になろうと思う。生きる希望を失いかけた人たちの、もう一度希望を取り戻すきっかけをつくってきたい。そして、そのためには自身が介助犬と心を通わせるこ

とができなくてはならない。

私は今、中学三年生で、今すぐ犬の訓練をすることはできない。しかし、周りの人たちと関わりをもち、人と接することやコミュニケーションの訓練はできる。周りの人たちとよりよい関係をつくっていくことが、今の私にできる夢への一歩だと、この本を読んで思った。今の自分に出来ることをやって頑張っていきたい。野口さんとグレীদেরとの出会いに感謝したい。

【第3部】

いのちの作文

壬生野小学校6年

古山 雅さん

瞳ちゃん。私と同じ小学六年生の女の子。マラソン大会の前日、右太たい骨骨肉腫という骨のガンが見つかったのです。この時から瞳ちゃんのガンとの闘いが始まるのですが、とても私と同じ年だなんて思えない事の連続でした。

骨肉腫というガンであと半年の命だと告知を受けた時、瞳ちゃんはいっぱい泣きたいだけ泣くと「私がガンで本当によかった。ママがガンじゃなくて良かった。私だったらガンになんか負けない。私は選ばれたと思っている。」

そして、「本当の事、教えてくれてありがとう。」と言ったのです。こんな言葉を言える瞳ちゃんに、私は驚いてしまいました。私も同じ立場だったのなら、とてもじゃないけど、そんな事を言える余裕もないでしょう。「どうせ半年の命なんだからほおっておいて。」と言って、周りのどんなやさしい言葉にも素直になれないような気がします。

抗ガン剤の副作用でかみの毛がぬげ始めた時も「私がかみの毛が多いからこのくらいの方がいいのよ。」と言ってお母さんが安心させ、注射の針がなかなか入らなくて、おばあちゃんが「下手くそねえ。」と言うと「そんなふうには言わないで。私の血管が細いからいけないの。」と言った瞳ちゃん。闘病していても、瞳ちゃんはわがままでどこか、人を思いやるやさしさに満ちあふれていました。

瞳ちゃんは、同じ病院に入院している自分と同じ闘病中の子ども達に絵をかいては「病気に負けずにかんばろうね。」とあげまし続けました。瞳ちゃん自身、抗ガン剤治りようや肺を切り取る手術、右足のガンにおかされた骨を取って人工骨にかえる大手術で大変な時も、それは変わりませんでした。瞳ちゃん

はどうしてこんなに強くやさしくいられるのか、私には本当の天使のように思えました。

瞳ちゃんが闘病中に書いた「命を見つめて」という作文は、命と真剣に向き合い、闘い、一日一日を精一杯生きた瞳ちゃんにしか書けない作文だと思いました。この作文から「生きる」ということがどんなに幸せで尊いものであるか、ふだんなにげなく過ごしているこの一日がどれだけ素晴らしいことであるかを知りました。そして、一日一日を大切に、精一杯生きなければならぬと、心の底から思いました。「この命の大切さを世界の人々に伝えることこそ私の使命である。」と瞳ちゃんが今もおこの本を通して私達に伝え続けてくれていると思います。

瞳ちゃんのように精一杯生きた命は輝きが違うと思いました。この世に生を受けた命はどの命も同じ重さがあります。そこに差はありません。でも、その命をどれだけ輝かせることができるか、それはその人の生き方次第で変わるのだと思います。

私はこの作文を通して「命」について真剣に考えることができました。瞳ちゃんが私達に伝えてくれたメッセージをしっかりと受け止めて私も生きていこうと思います。

1月26日は

文化財防火デーです

昭和24年のこの日は、世界的な至宝で1300年の歴史を持つ日本最古の壁画が描かれた奈良県法隆寺金堂が焼損した日に当たります。その後も、文化財の焼損が相次いだことから、文化財を火災や震災、その他の災害から保護するとともに、国民の文化財愛護思想の普及高揚を図ることを目的とし、昭和30年にこの日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開しています。

昭和25年に京都の金閣寺、平成10年5月に奈良県の東大寺戒壇院千手堂、平成12年5月に京都寂光院の火災などで貴重な財産である文化財が被害を受けました。

文化財の火災は、放火や周囲からの飛び火によるものが多いという特徴があります。したがって、文化財の防火は、文化財を管理する方々だけでなく地域の住民や消防機関をはじめとした関係機関の協力があつてこそ成し遂げられるものです。

市内にも、歴史的で芸術的な建造物が数多くあり、この時期、各地で消防訓練を実施します。皆さんも、見学するなど訓練に関わることで、文化財防火に関心を高めたい。ただくようお願いします。

貴重な財産である文化財を後世に伝えていくことは、私たちの重要な責務です。

【問い合わせ】

消防本部予防課

☎24・9105

FAX 24・9111



- 上野図書館 ☎ 21-6868
- いがまち公民館図書室 ☎ 45-9122
- 島ヶ原公民館図書室 (島ヶ原会館内) ☎ 59-2291
- 阿山公民館図書室 (あやま文化センター内) ☎ 43-0154
- 大山田公民館図書室 (大山田教育センター内) ☎ 47-1175
- 青山公民館図書室 ☎ 52-1110

図書館だより

Library Information

★新着図書紹介 (上野図書館)

■ 一般書 『職業“振り込め詐欺”』
NHKスペシャル「職業“詐欺”」取材班／編
被害総額は1000億円を超えるという“振り込め詐欺”。空前の大規模犯罪に関わる若者たちを描いて話題になった、スペシャル番組の書籍化です。

■ 一般書 『マラソン1年生』
たかぎ なおこ／著
スポーツの経験がほとんどない著者が、ホノルルマラソンに挑むまでを描いたコミックエッセイです。著者のたかぎさんは三重県出身ということで、親近感が湧いてきます。

■ 児童書 『知ろう！防ごう！インフルエンザ①②』
田代 真人ほか／監修 (※3巻まで続刊)

私たちの暮らしに忍び寄り寄る感染症——インフルエンザの脅威。その感染を防止しつつ、日常生活を送るための注意点が書かれています。大人の人と一緒にどうぞ。

■ 絵本 『サラちゃんとおおきなあかいバス』
アンナ・ウォーカー／絵
バスの中で居眠りしていたら、うっかり終点まで行ってしまったサラちゃん。サラちゃんを見つけてくれたのは…。



1月の読み聞かせ

開催日	会場	時間	催物	*は読み手
6日(水)	ふるさと会館いがち小ホール	10:00～1時間程度	絵本の時間	
9日(土)	上野図書館2階視聴覚室	14:00～30分程度	おはなしの会	
17日(日)	阿山公民館図書室読み聞かせ室	10:30～30分程度	読み聞かせ会	*読み聞かせボランティア「はあと&はあと」
19日(火)	阿山公民館図書室読み聞かせ室	10:30～30分程度	読み聞かせ会	*読み聞かせボランティア「はあと&はあと」
20日(水)	上野図書館2階視聴覚室	15:00～30分程度	えほんの森	*読み聞かせボランティア「よもよも」
23日(土)	上野図書館2階視聴覚室	14:00～30分程度	おはなしの会	
23日(土)	大山田公民館図書室えほんのへや	10:30～30分程度	おはなしたいむ	*読み聞かせボランティア「きらきら」
23日(土)	島ヶ原公民館図書室	10:30～30分程度	絵本の時間「ネエよんで」	
24日(日)	上野図書館2階視聴覚室	13:30～15:00	かみしばい	*主催:えほんとおそぼう「まんま」
27日(水)	青山公民館図書室絵本のコーナー	10:30～30分程度	大きな絵本の読み聞かせ会	

★絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします

いがまち人権センター 「人権パネル展」

世界の難民と人権

◇とき◇ 1月5日(火)～22日(金)

午前9時～午後5時

※土・日曜日・祝日を除く

※15日(金)は、午後9時まで延長

◇ところ◇ いがまち人権センター ホール

難民とは、「人種・宗教・国籍もしくは、政治的意見または、特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々を言います。

世界の国々では、国内の政治が不安定で『強制移住』や『強制労働』が行われ、新たな難民の流入が続いています。国際的な面では、第三国定住(難民認定法に基づき出国以外への移住が必要となる)にむけて生活権などを含めた受入れを行う制度が進められています。

第三国定住を求める方の中には医師、教員も大勢含まれており、自治運営などに大きな影響を与えています。学

校でも教員不足が深刻化しており、新たな雇用、育成に力があります。長期化する難民生活、特に子どもたちに教育の機会が必要不可欠です。現状を認識し、私たちにできることを見つけていく。このことが次世代につながっていくのではないのでしょうか。

差別のない社会を目指すためには、差別に対してひとりでも多くの方が、正しい知識をつけ、自分に何ができるかを考えていくことが必要です。パネルを通じて人権とはどのようなものか改めて考えていただきたいと思います。

問い合わせ

いがまち人権センター

☎ 45・4482
FAX 45・9130